



KANI PUBLIC ARTS CENTER ala



文化庁文化芸術振興費補助金

(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ

2024

あーとま塾

企画の背景

劇場建設ラッシュでハコモノ批判があった1994年に、ala前館長の衛紀生が「創客（顧客との社会的意義の共有による、支持者拡大）」の考えを打ち出し、その後のalaのマーケティングにおいて、大量にチラシをばら撒いてチケットを売り捌くという興行としての「売上数や集客数に依存したマーケティング」ではなく、社会包摂事業を軸に人と人をつなげて共感を得ることにより支持を拡大させる「関係品質のマーケティング」を重要視してきました。

2024年には、(公社)日本マーケティング協会はマーケティングの定義を34年振りに刷新し、「顧客や社会と共に価値を創造し、その価値を広く浸透させることによって、ステークホルダーとの関係性を醸成し、より豊かで持続可能な社会を実現するための構想でありプロセスである」とし、企業や非営利組織等と顧客は共に価値を創造する関係性へと変化し、マーケティングにもその視座を考慮することが必要であるとなりました。

2006年以降、CSV (Creating Shared Value、共有価値の創造) という経営戦略のフレームワークも生まれ、経済的価値を生み出しながら、同時に社会のニーズに応え、社会の抱える問題を解決する例も増えています。

あーとま塾2024では、このようなマーケティングの概念やCSVの手法を土台にした「創客を科学する」をテーマにし、これからの文化芸術の可能性をさらに広げるためアーツマーケティング・ゼミを開催します。

SINCE 2016

国の定める劇場法やその指針、可児市文化創造センター(ala)が行ってきた地域貢献・社会包摂に関する実践的アプローチを題材に「社会機関としての劇場の役割」を考えていく合宿形式のプログラム。2016年から開催し、今年で9年目を迎えました。

これまで前館長の衛紀生氏による監修の下、文化政策・社会包摂・マーケティングの3つのテーマを掲げ、さまざまな実践者や学術研究者、企業の社会貢献担当者、国の文化政策担当者などをゲスト講師として招き、年2~3回ゼミを開催し、公共劇場・芸術団体運営者や自治体職員、実演家等の多様なステークホルダーが参加し、議論して学び合ってきました。

アプローチ方法

企業の社会貢献部門や、大学の芸術支援やCSVの研究者によるレクチャーと、グループワークではalaのステークホルダー分析を行います。その後、alaの「創客」の取り組みの事例を参考に、他組織において再現可能な点を分析し、顧客との関係づくり戦略の可視化に取り組みます。文化芸術関係組織の社会的価値と経済的価値を同時最大化する方法を模索し、来年度以降には、あーとま塾関係者で、ゼミで得た知見や成果等を文化芸術関係の学会で発表する予定です。

今年のテーマ
創客を科学する

Step 1

「組織の存在意義」

2024.9/4(水)・5(木)

Step 2

「文化芸術のCSV」

2025.2/5(水)・6(木)

PLACE 可児市文化創造センター ala・美術ロフト 〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139

※ライブ配信はありません。希望者は後日、アーカイブ配信を視聴できます(要 視聴後アンケート提出)。

主催：公益財団法人可児市文化芸術振興財団

SCHEDULE

詳細は参加者へ個別連絡します。 ※状況に応じ、プログラムを変更する場合があります。

事前オンラインレクチャー：8/26(月) 19:00~20:30 グループワークの事前説明

Step 1 「組織の存在意義」

2024.9/4(水)・5(木)

1日目 13:00~17:00
レクチャー / トークセッション / グループワークオリエンテーション

講師
衛 紀生(あーとま塾 塾長)
大木 義徳(株式会社三井物産戦略研究所 産業社会情報部 主席研究員)
若林 朋子(立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授)

レクチャーテーマ
『文化芸術を通じた日本企業の社会貢献
-社会包摂機能の発揮が開く可能性-』を題材に



2日目 10:00~15:00
グループワーク

グループワーク内容
alaのステークホルダー分析ワークショップと、alaの「創客」の取組の事例を参考に、他組織において再現可能な点を分析し、顧客との関係づくり戦略の可視化に取り組む。

ファシリテーター
落合 千華(一般社団法人CoAr代表理事)

Step 2 「文化芸術のCSV」

2025.2/5(水)・6(木)

1日目 13:00~17:00
レクチャー / トークセッション / グループワークオリエンテーション

講師
衛 紀生(あーとま塾 塾長)
岡田 正大(慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授)

レクチャーテーマ
Step1を基にした、CSV(共有価値の創造)とコレクティブインパクトから考える組織の社会的価値と経済的価値の同時最大化

2日目 10:00~15:00
グループワーク

グループワーク内容
Step1で分析したステークホルダーの整理をふまえて、文化芸術関係組織の社会的価値と経済的価値を同時最大化する方法を模索する。

ファシリテーター
落合 千華(一般社団法人CoAr代表理事)

あーとま塾コーディネーター：半田将仁(可見市文化創造センター 事業制作課)、今尾江美子(ケイスリー株式会社 ディレクター)

GUEST



塾長

衛 紀生

可見市文化創造センター
シニアアドバイザー

演劇批評家、演劇キャスター、早稲田大学文学部講師、県立宮城大学事業構想学部客員教授を経て、2007年に可見市文化創造センター館長兼劇場総監督就任。2021年4月より可見市文化創造センター シニアアドバイザー兼まち元気そうだん室長に就任。現在、独立行政法人日本芸術文化振興会 芸術文化振興基金運営委員会委員 委員長代理。



Step1 講師

大木 義徳

株式会社三井物産戦略研究所
産業社会情報部 主席研究員

損害保険会社(企画・国際部門)、内閣府(規制改革担当部局)、東京外国語大学(多言語・多文化教育研究センター)などを経て現職。公職として文化庁「文化審議会」(国語分科会)委員、文部科学省「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」審査委員など。早稲田大学大学院政治学研究科公共経営専攻修了(公共経営修士)。



Step1 講師

若林 朋子

立教大学大学院
社会デザイン研究科特任教授

デザイン会社勤務を経て、英国で文化政策とアートマネジメントを学ぶ。1999~2013年(公社)企業メセナ協議会勤務。プログラム・オフィサーとして企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事(ネットTAMの企画・運営等)。2013年よりフリー。事業コーディネーター、執筆、編集、調査研究、評価、自治体の文化政策やNPOの運営支援等に取り組む。NPO法人・公益法人理事・監事、助成審査委員、自治体の文化振興計画等策定委員など。2016年より立教大学大学院特任教員。社会デザインの領域で文化、アートの可能性を探る。



Step2 講師

岡田 正大

慶應義塾大学大学院
経営管理研究科教授

企業と社会フォーラム学会(Japan Forum of Business and Society)会長。1985年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。本田技研工業(株)を経て、1993年MBA(経営学修士、慶應義塾大学)取得。Arthur D. Little(Japan)でIT産業の戦略コンサルテーションを経験後渡米、米国Muse Associates社フェロー、1999年にPh.D.(経営学博士、オハイオ州立大学)を修了。慶應義塾大学専任講師、准教授を経て現職。企業が経済的利益と社会や環境の課題解決を同時成立させるCSV型戦略を研究。開発途上国でのフィールド調査を積極的に行っている。



グループワーク
ファシリテーター

落合 千華

一般社団法人CoAr代表理事/
ケイスリー株式会社ディレクター

子どもの活動、芸術文化活動に関する評価・伴走支援、企画運営に取り組む。ピアノ講師・演奏活動、詩作に取り組むと共に、主に音楽を中心とした舞台芸術に関する団体や劇場との事業に従事。慶應義塾大学理工学部卒業・同大学院修士課程修了・博士課程(政策・メディア)中退。外資メーカーR&D、経営コンサルタント、社会課題解決に関するコンサルティングを経て現職。慶應義塾大学SFC研究所上席所員。沖繩県在住。

ENTRY

下記の「参加申込フォーム」へ必要事項をご入力の上、お申込みください。

【参加申込フォーム】 <https://sgfm.jp/f/artma2024>



申込締切

2024年8月9日(金) 17:00

参加費
無料
(要申込)

定員
15名

参加
条件等

- 原則2回とも現地へお越しいただき、参加意欲を持ってグループワークに参加できる方。
- 現地でのゼミ以外に、オンラインミーティングを行う場合(1~2回程度)があり、それに参加できる方。
- 各回終了後に2,000字程度のレポートを提出できる方。※終了後に年間報告書に掲載します。
- 定員を超えた場合には、選考を行うことがあります。

お問合せ

可見市文化創造センター 事業制作課(半田将仁・松浦正和) 電話:0574-60-3311 9:00~22:30 ※火曜休館